

令和2年度指定管理者による管理に対するモニタリング・評価の結果について

総括シート〔令和2年度〕

施設名称	品川図書館Aグループ（荏原図書館、ゆたか図書館、源氏前図書館）
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入館者数（人）	540,123	502,320	365,240
全登録者数（人）	33,870	37,040	39,497
全貸出総数（点）	852,483	811,197	682,141
予約処理件数（件）	254,418	282,177	287,210
レファレンス件数（件）	9,763	12,961	12,931
児童おはなし会参加者数（人）	2,533	2,651	470

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
収	指定管理料	227,815,000	230,644,000	233,694,000
	複写サービス収入	609,380	541,490	272,680
入	小計	228,424,380	231,185,490	233,966,680
支	資料費	43,568,826	43,967,934	43,782,883
	光熱水費	3,209,081	3,137,536	2,935,597
	小破修繕・補修工事費	1,445,364	2,087,661	2,305,888
出	備品購入費	600,804	601,700	211,200
	人件費	164,681,737	164,281,738	170,904,789
	その他運営経費	17,002,745	16,648,499	15,747,420
	小計	230,508,557	230,725,068	235,887,777
	差引収支	△2,084,177	460,422	△1,921,097

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的に評価した項目）

- 資料・配布物の充実、アニメ上映会の実施、自習室の提供、近隣の学校との連携強化などティーンズサービス全般の向上に努めている。
- ブックリストやパスファインダーの作成、自宅で「おはなし会」を実施できるセットの配布など短時間滞在の中でも、充実した図書館サービスを提供している。
- 新型コロナウイルス感染症の対応フローを作成し、連絡体制の確保や感染防止対策に努めている。

（改善が必要な項目）

- 地域に開かれた図書館として、世代の変化に合わせたサービスの提供を通じて利用者の利便性向上や知識や興味を広げる取り組みが求められる。
- 有資格者の 60%以上の配置について努力すること。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 有資格者の配置について引き続き努めるとともに、感染防止対策を徹底し、高齢者や児童のニーズや特性に配慮した事業の実施に取り組むこと。
- 学校や商店街との連携を継続的に実施し、地域の情報発信強化を図ること。また認知症カフェの拡充に取り組み、高齢者の身近な居場所づくりに寄与すること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 利用者満足度について、3館とも前年度と比べ高くなっている。（荏原図書館 86%、ゆたか図書館 88%、源氏前図書館 86%）
- 館内投書箱やカウンターにて利用者の声を収集し、意見や要望を運営に反映させ、利用者満足度向上に向け改善に取り組んでいる。

➤ 企画行事実施にあたっては参加者アンケートを実施し、計画への反映と区民要望に応えるための取り組みを行っている。

2 予算執行（財務）の視点

➤ 適切な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告を行っている。収入は複写サービス料金のみであるが、前年度実績に基づいて収入計画を立てている。

➤ 老朽化が進む建物の修繕等の対応とともに、施設維持管理については定期点検など施設維持管理事業者と打ち合わせを行いながら実施している。

➤ 支出については概ね計画どおり執行できていたが、臨時休館やサービス縮小の影響により、複写サービス収入は減少した。

3 サービス向上および業務改善の視点

➤ コロナ禍で滞在時間が制限される中、ブックリストやパスファインダーを多数提供することで、本選びのサポートや利用者の読書に対する好奇心を高める取り組みを行っている。

➤ 集客イベントの開催が難しい中、企画展示を活用した学校や商店街との連携を維持できている。地域のニーズや特性を踏まえた継続的な事業連携を期待する。

➤ 高齢者支援事業として認知症講演会を開催し、利用者の認知症への関心に応えるための取り組みを行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「認知症カフェ」は3回のみで開催となったが、引き続き参加者の定着と新たな図書館利用の拡充が求められている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

➤ Aグループは、(株)図書館流通センターとNPO法人リディアが共同事業体として指定管理者を受託。一般サービスは(株)図書館流通センター、児童サービスはNPO法人リディアが実施している。月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議等事業運営にあたり情報の共有が図れるよう工夫と体制を整えている。

➤ グループ間での人員配置、応援体制も確立されており、土曜日・祝日・日曜日等の利用者が集中する曜日や時間帯においてもサービスを低下させない運営体制に努力している。継続的な有資格者の配置が課題となっている。

➤ オンライン研修や内部監査を行い、個人情報管理、労務管理、会計管理などを適切に行う体制づくりを強化している。

➤ 新型コロナウイルス感染症に関して、感染症防止対策や罹患がでた場合の対応整理など危機管理に対する取り組みを行っている。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き利用者のニーズや特性に配慮したサービスの提供を行うこと。また、感染防止対策を徹底し、地域や商店街等との連携事業を継続すること。

総括シート〔令和2年度〕

施設名称	品川図書館Bグループ（大井図書館、南大井図書館、八潮図書館）
指定管理者	株式会社ヴィアックス
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入館者数（人）	463,208	443,953	348,563
全登録者数（人）	27,616	30,069	32,171
全貸出総数（点）	707,083	686,040	617,715
予約処理件数（件）	238,862	264,681	266,342
レファレンス件数（件）	8,187	10,299	8,427
児童おはなし会参加者数（人）	2,201	2,278	476

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
収	指定管理料	217,842,000	220,636,000	223,477,000
	複写サービス収入	471,660	428,330	272,790
入	小計	218,313,660	221,064,330	223,749,790
支	資料費	36,677,212	36,702,862	36,700,309
	光熱水費	14,593,647	13,651,878	11,869,799
	小破修繕・補修工事費	1,497,711	991,060	583,280
	備品購入費	600,000	600,000	999,724
	人件費	141,076,000	137,250,000	138,689,000
	その他運営経費	23,626,795	31,696,764	32,064,583
出	小計	218,071,365	220,892,564	220,906,695
	差引収支	242,295	171,766	2,843,095

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的に評価した項目）

- 重点テーマとして掲げた人材育成と接遇の向上に努め、継続的・安定的な図書館サービスの提供を行っている。
- ブックリストやパスファインダーの作成、特集展示の充実、館内サインの刷新など情報提供の強化や利用者の興味の幅を広げる取り組みを行っている。
- 対外的な働きかけが難しい中で、近隣施設との継続的な連携を図っている。

（改善が必要な項目）

- コロナ禍で滞在時間やイベント開催に制限がある中で、今までの図書館サービスのあり方を見直し、地域の情報発信拠点として、学校や近隣施設との連携強化に努めること。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 感染対策を継続した上で、多くの資料に触れる機会の提供、館内環境の整備、レファレンスの強化など図書館資料と利用者を結びつける取り組みを図ること。
- 近隣施設と連携を図り、地域の特色を活かした事業を計画的に実施すること。また、認知症カフェの安定した運営を継続すること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 重点テーマに掲げている接遇について研修を実施し維持向上に努めており、大井図書館の利用者満足度は90%を超えている。
- 利用者アンケートの結果をもとに改善に取り組み、図書館サービスに反映させる継続的な努力が利用者満足度の高評価に繋がっている。

2 予算執行（財務）の視点

- 予算執行にあたっては、資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費、施設維持管理費、事務費等年間計画を立て、本社経理担当および公認会計士による確認を行い、適正執行に努めている。修繕や備品購入に関しては事前に品川図書館と協議を行い、計画的に執行している。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止にともなう臨時休館の影響を受け、光熱水費の未執行や、複写サービス収入の減少はあるが、それ以外は概ね計画どおりに執行できている。

3 サービス向上および業務改善の視点

- 近隣小学校との連携により、児童生徒のタブレットへの図書館PRやQRコードを活用した新中学生向けリーフレットの作成など、区立図書館全体の取り組みにつながった。
- コロナ禍において利用者が安心して図書館を利用できるよう感染対策を徹底するとともに、資料の提供方法や特集展示に工夫を施し、短時間滞在における利用者の資料選びを支援した。
- 館内環境の整備や蔵書管理に努め、利用者の利便性向上に取り組んだ。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- 運営体制については、募集要項、業務要求基準書に基づき統括館長、地区館長を配置し、有資格者については目標を上回る配置を行っている。(大井図書館有資格者配置 61%、南大井図書館有資格者配置 69%、八潮図書館有資格者配置 61%)
- 年間研修計画に基づき、本社での研修および館内整理日を活用した研修を実施し、図書館サービスの基本となる接遇やレファレンス力の向上に努めている。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き、感染症対策を徹底し、人材育成や接遇の向上に努め、継続的かつ安定的な図書館サービスの提供を行うこと。また、コロナ禍でイベント開催に制限がある中で、学校や近隣施設との連携強化を工夫して行うこと。

総括シート〔令和2年度〕

施設名称	品川図書館Cグループ（五反田図書館、大崎図書館、大崎図書館分館、二葉図書館）
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入館者数（人）	597,027	700,736	484,817
全登録者数（人）	45,106	50,893	54,967
全貸出総数（点）	891,476	996,720	855,849
予約処理件数（件）	292,227	391,597	389,837
レファレンス件数（件）	11,310	14,871	13,134
児童おはなし会参加者数（人）	3,093	3,772	688

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
収	指定管理料	262,638,000	306,810,000	311,327,000
	複写サービス収入	589,650	620,230	357,340
入	小計	263,227,650	307,430,230	311,684,340
支	資料費	56,118,787	61,738,694	63,265,183
	光熱水費	1,056,206	1,975,019	2,017,745
	小破修繕・補修工事費	1,523,340	1,006,336	1,001,077
	備品購入費	648,000	600,640	995,500
	人件費	189,174,591	222,517,724	226,499,624
	その他運営経費	18,932,074	19,567,135	19,335,574
出	小計	267,452,998	307,405,548	313,114,703
	差引収支	△4,225,348	24,682	△1,430,363

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的に評価した項目）

- 滞在時間に制限がある中で、特集展示やブックリストの作成など実施可能な非集客型サービスの提供を積極的に行っている。
- 新型コロナウイルス感染症の対応フローを作成し、連絡体制の確保や感染防止対策に努めている。
- ティーンズ資料の充実、アニメ上映会・POP バトルの実施など重点テーマとして掲げたティーンズサービスの拡充に努めている。

（改善が必要な項目）

- コロナ禍で変化する図書館の役割を考慮し、図書館利用の促進を図ること。また、近隣施設との継続的な連携を行い、地域の課題解決支援や情報発信力の強化に努めること。
- 有資格者の60%以上の配置について努力すること。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 図書館サービスが滞在型から情報提供型に変化している中で、短時間滞在で本を選ぶサポート、来館自体を楽しめる企画展示、レファレンスの周知など安全に配慮した利用の促進を図ること。
- 近隣の福祉施設や地域企業との連携を強化し、積極的な情報発信を行うこと。また地域と連携した認知症カフェの充実を図ること。
- 有資格者の配置について引き続き努めること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 利用者満足度は前年度と比べ4館ともに向上している。（五反田図書館 91%、大崎図書館 77%、大崎図書館分館 86%、二葉図書館 84%）
- 利用者アンケートから利用者傾向を把握し、意見や改善点について図書館運営に反映させたことが満足度向上に繋がっている。

2 予算執行（財務）の視点

- 適切な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告を行っている。収入は複写サービス料金のみであるが、前年度実績に基づいて収入計画を立てている。
- 支出については概ね計画どおり執行できたが、臨時休館やサービス縮小の影響により、複写サービス収入は減少した。

3 サービス向上および業務改善の視点

- コロナ禍で予定していた事業が実施できない中、代替の非集客型イベントを積極的に実施し、配布物や特集展示を充実させることで、短時間滞在で楽しめる図書館サービスの拡充が図られた。
- 大崎図書館と SHIP（品川産業支援交流施設）の連携開始や、二葉図書館と大崎高等学校防災部が連携した「防災展示」実施など、地域の特性や特徴を生かし、事業連携に取り組んでいる。

➤ 大崎地域の図書館環境充実と利用拡充に向け、大崎図書館、大崎図書館分館、大崎駅西口図書取次施設との共同企画の取り組みや連携事業が引き続き求められている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

➤ Cグループは、(株)図書館流通センターとNPO法人リディアが共同事業体として指定管理者を受託。一般サービスは(株)図書館流通センター、児童サービスはNPO法人リディアが実施している。月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議等事業運営にあたり円滑な運営を目指した工夫と体制を整えている。

➤ 新型コロナウイルス感染症に関して、感染症防止対策や罹患がでた場合の対応整理など危機管理に対する取り組みを行っている

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。感染症対策を徹底し、特集展示やブックリストの作成など実施可能なサービスの提供等を引き続き行うこと。また、近隣施設との継続的な連携を行うこと。

文 教 委 員 会 資 料
令 和 3 年 9 月 2 2 日
子 ども 未 来 部 子 育 て 応 援 課
子 ども 未 来 部 保 育 課

令和2年度指定管理者による管理に対するモニタリング・評価の結果について

- 1 子育て応援課 所管施設
 - ・品川区立家庭あんしんセンター
- 2 保育課 所管施設
 - ・品川区立就学前乳幼児教育施設（ぷりすくーる西五反田）

総括シート〔令和2年度〕

施設名称	品川区立家庭あんしんセンター
指定管理者	社会福祉法人 福栄会
施設所管課	子ども未来部 子育て応援課

<設置目的>

母子家庭に対する自立生活支援および子育て家庭に対する育児支援を図る。

指定管理業務の概要

- (1) ひまわり荘、子育て支援センター、ファミリー・サポート・センターにおける事業運営に関すること。
- (2) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用承認および承認取消に関すること。
- (3) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用に係る利用料金の徴収に関すること。
- (4) 施設等の維持および修繕に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績（利用者数、利用率等）に関する統計情報および収支決算書の概要

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
来館者数(人)	6,637	5,178	1,841
ショートステイ実施件数（延宿泊数）	130	87	99
トワイライトステイ実施件数（延利用回数）	1,656	1,637	560

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
収	管理運営委託料	148,007,324	145,098,637	148,695,822
	子育て短期支援事業利用料	2,805,300	2,703,600	1,053,600
入	小計	150,812,624	147,802,237	149,749,422
支	事業費	116,733,913	115,562,601	122,230,896
	維持・修繕費	35,254,079	30,244,531	31,541,902
出	小計	151,987,992	145,807,132	153,772,798
	差引収支	△1,175,368	1,995,105	△4,023,376

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

【評価事項】

○ひまわり荘では、自立支援計画票等に基づく母親の支援や、学習支援や居場所の提供等の子ども支援および退所後のアフターケアを継続し充実させて実施してきた。コロナ禍のために、互助会として母親等に提供する情報交換や学びの場は、個別対応でカバーするなど、外出の機会も少なくなりがちなそれぞれの家庭に寄り添う工夫を行っている。また、2年度より正式に始まった広域利用への対応準備として他区への視察等を行い、参考にするなど前向きに取り組もうとする姿勢がみられた。

- 子育て支援センターでは、緊急事態宣言の発令を受けて地域組織化事業の親子交流事業は中止をしたが、ひろば事業の「フラッと広場」は4月・5月を中止した以後は利用人数を制限しながら実施した。コロナ禍のため家庭訪問が制限される家庭に対しては、児童センターの場所を借りて面接をし、電話での相談を頻回に行って相談者との繋がりを切らないよう工夫した。ショートステイは保護者の出張を理由に件数が増加し、件数は回復基調にある。一方でトワイライトステイは、保護者がリモートワークで在宅したため利用が減少した。館内消毒などに注意して運営を行った。
- ファミリー・サポート事業では、養成講座を年5回開催予定したものの、コロナ禍の緊急事態宣言により2回中止となり、3回開催となった。その中でも提供会員12名の登録があった。また、活動件数については、感染防止対策として利用を一部制限していたため、前年度実績の半数以下となったが、利用者に寄り添った事業を行った。

【改善が必要な事項】

- 情報セキュリティの向上、人材育成の促進

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 家庭あんしんセンターでは、多くの個人情報取扱っていることから、情報セキュリティ対策の一層の向上が求められている。管理体制や研修等の実施による職員一人一人の意識の向上を図る具体的かつ継続的な取り組みが必要である。また、質の高いサービスが提供できるよう研修等を実施し育成を図る。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 各事業において、利用者からの意見・要望については、意見箱や苦情解決制度などさまざまな方法で情報収集し、迅速な対応と事業の改善に取り組んでいる。

2 予算執行（財務）の視点

- コロナ禍での稼働率低下を踏まえ光熱水費等をはじめとする経費削減の取り組みを進めつつ、管理運営委託料は適切かつ計画的に執行したが、事業費の増加および防犯対策等の施設改修のため、維持・修繕費がかさみ収支はマイナスとなった。
- 利用料金収入は、環境整備や安全の確保など利用者サービス向上のために充てている。
- 子育て短期支援事業では、利用管理システムを活用し、効率的に請求事務を行っている。

3 サービス向上および業務改善の視点

- 各事業ごとに目標値を設定し、達成に向けて常に取り組んでいる。日々の業務については、職員会議等で改善策を図っている。
- ひまわり荘では、毎月の互助会行事やアンケート等により、利用者からの要望・意見を把握し改善に活かすとともに、退所家庭のアフターケアの継続実施と充実を図るなど、着実な自立支援をサポートしている。
- ファミリー・サポート事業では、利用者の支援向上に向けて、会員の意向調査を実施、分析結果の事業に活かしている。

- 虐待対応を子ども家庭支援センターへ統合したため、子育て支援センターの相談で虐待があった場合は、すみやかに担当者へ引き継ぐ体制を構築した。
- ショートステイの利用申し込みの際、面談で家庭での状況や以前ショートステイを利用した際の感想を聞き、子ども家庭支援センターにも報告を行い、保護者と子どもたち双方に効果的な利用回数や宿泊日数などの提案を行って、養育不安対応や子どもの負担軽減を行った。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- 適正な職員配置や各事業間連携が図られており、常に区と連絡調整を行いながら、適正な事業の実施に努めているほか、安全管理については、荏原警察署に依頼し、防犯講習にも積極的に取り組んだ。
- 人材育成について、質の高いサービス提供ができるよう、OJT研修をはじめ内部・外部研修の充実により育成の促進・職員のスキルアップを図った。内部研修においては、施設全体の共通課題を抽出し、計画的に行ったほか、外部研修は救急救命講習等を実施した。また、情報管理の取り組みとして、法人における「情報管理安全対策」に規定する具体的な安全対策を実施し、情報の適切な管理・保護および漏洩等のリスクを職員に周知、徹底した。
- 防災マニュアル等に基づき、荏原消防署の立会いのもと防災避難訓練を実施し、防災意識の徹底を図った。また、震災対策として、震災マニュアルに基づき行動し防災対応に万全を期した。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き感染防止対策を講じながら、事業の継続や虐待防止規定に基づく研修の参加、チェックリストを活用した取組み等を適切に実施すること。また、事業の実施にあたっては区の関係機関と連携し、包括的な支援体制の強化に努めること。

総括シート〔令和2年度〕

施設名称	品川区立就学前乳幼児教育施設（ぶりすくーる西五反田）
指定管理者	特定非営利活動法人子育て品川
施設所管課	子ども未来部保育課

<設置目的>

小学校就学前の乳幼児に対し、保育園および幼稚園の相互の特色を生かした保育および教育を継続的かつ一体的に実施することにより、乳幼児の健全な育成を図るとともに、地域における子育て家庭を支援する。

指定管理業務の概要

- (1) 保育園、幼児教育施設および地域子育て支援センターにおける事業の運営に関すること。
- (2) 延長夜間保育の利用の承認および承認の取消しに関すること。
- (3) 幼児教育施設の入園の承認ならびに入園の制限および退園に関すること。
- (4) 預かり保育の利用の承認に関すること。
- (5) 利用料金の徴収に関すること。
- (6) 施設および設備の維持・修繕に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数（人）	月平均 120 人	月平均 121 人	月平均 121 人
支援センター入館者数（人）	月平均 705 人	月平均 569 人	月平均 321 人
オアシスルーム利用者数（人）	月平均 172 人	月平均 157 人	月平均 71 人

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
収	委託料等	206,040,297	224,564,770	172,602,467
	利用料金等	40,512,983	29,065,290	52,156,761
入	小計	246,553,280	253,630,060	224,759,228
支	人件費	164,004,032	150,248,968	145,454,541
	事業費	28,921,963	40,431,792	25,238,971
	事務費等	41,575,072	42,022,346	52,693,289
出	小計	234,501,067	232,703,106	223,386,801
	差引収支	12,052,213	20,926,954	1,372,427

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

- ・就学前までの一貫した教育・保育指針に基づき、幼児教育を行う品川区独自の乳幼児教育施設として、高い保育目標のもとに活動している。園では独自の年間保育計画を立て、職員との共有化を図り、創意工夫しながら、日々の保育に反映できるよう取り組んでいる。
- ・「安全・安心な食の提供」は基より、食物アレルギー等配慮食を始め、保護者対象の試食会など、様々な機会を通して、給食委託業者と連携し、「食育」の強化・充実に努めている。
- ・職員外部研修の回数を増やし、内容を多様化するなど、職員の資質・専門性の向上に努めている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて支援センターの利用および、オアシスルームの定員を制限したため、利用者が大幅に減少した。
- ・令和3年度より指定管理者が変更となるため、円滑な引継ぎの準備を進めた。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- ・優秀な人材確保のため、品川区保育士等キャリアアップ補助金相当分や保育サービス推進費補助金相当分、処遇改善等加算Ⅱ補助金相当分などの制度を活用して、引き続き職員の処遇改善に取り組み、併せて経費の削減にも取り組んでいく。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を見極めつつ、支援センター・オアシスルーム事業の正常化を検討する。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

品川区独自の就学前乳幼児教育施設として、特色ある保育活動および施設運営を行っており、令和2年度東京都福祉サービス第三者評価においても、保護者の満足度は97%に達しており、満足度は高い。

2 予算執行（財務）の視点

- ・特定非営利活動法人子育て品川による指定管理が終了することとなったため、ぷりすくーる西五反田事業のための積立金を運営費にまわしたことにより利用料金等の収入が増加した。一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため改修工事の実施を見送ったこと等により委託料が減額となり、結果として例年と比べ差引収支が減少した。
- ・今後も特色ある事業の充実や人材の確保のため職員の処遇改善を行いつつ、効率的な施設運営および収入の確保により、収支状況の安定を見込む。

3 サービス向上および業務改善の視点

○重点テーマおよび目標

- ・開園から15年間の幼保一体の保育実践を経て、特色ある保育・教育活動の充実が図られた。
- ・年4回、苦情・サービス向上委員会を開催し、職員から保護者の要望・苦情の報告を受け、第三者委員から適切な提案や助言・指導により、さらなる保育事業のレベルアップを図る。

○指定管理者からの提案等

- ・効率的な施設運営を図るため、委託業務内容の見直しと業務がより効果的に進むよう、委託業者と連携し、委託内容などを保育者・職員にも周知するなど、円滑に行えるよう努めている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

〈組織管理体制〉

- ・ 児童福祉法による保育所運営にあたる適切な人員を配置し、適切な組織運営が行われている。
- ・ 内部研修の充実に努め、職員のスキルアップに取り組んだ。

〈業務の適正執行〉

- ・ 不審者対応管理対策として、セキュリティカードシステムを使用するなど、万全の危機管理体制を構築している。
- ・ 事故、災害および非常時対応の訓練強化に努めているとともに、非常食や発電機等を備えるなど、園児の安全確保に努めている。
- ・ 法人管理規程に基づき再委託先を適切に管理している。
- ・ 個人情報の保護および法令遵守の観点から、日常業務での個人記録の管理等を徹底している。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き、職員の人材確保に取り組むこと。また、感染防止対策を講じながら、特色ある保育活動を行い、第三者評価における満足度の水準の維持・向上を図ること。